

東京成徳大学 ハ千代キャンパス 図書館だより



Vol. 40
2018. 01. 04 発行

図書館運営委員会



本の歴史～日本における製紙と製本～

前月号 (Vol. 39) では紙が発明される以前の、「本の歴史」についてご紹介しました。今回はその後、製紙・製本がどのように行われてきたのか探ってみましょう。



● 紙の発明

発見されている最古の「紙」は、中国甘肅省天水市の古墓で発掘された地図の描かれた麻の紙で、前漢文帝・景帝（在位紀元前 189-141）のものとして推定され、放馬灘紙と呼ばれています。その後、紙の材料や製造方法は改良を重ねられながらシルクロードを経由し、西洋でも紙が使われるようになりました。

● 日本の紙

中国で発明された製紙技術は、朝鮮を経て日本（第 33 代推古天皇（593～628）の時代）にもたらされたと伝えられています。日本において製紙技術は原料、助剤、抄紙技術（紙梳き）に種々工夫を重ねられ、中国や朝鮮の紙に比べはるかに強靱かつ優美な、いわゆる和紙が完成されました。



● 日本最古の書物

聖徳太子の自筆とされている『法華義疏』（全 4 巻、611-615）が日本最古の書物とされています。法華經の注釈を集め、自らの注釈も施した書です。【※図書館で読めます！→『法華義疏 上・下巻』 請求番号：183.3/Sh96/1,2/2 階書庫】

<日本の製本>

● 卷子本

紙の発明後、卷子本（巻物）が創案されました。日本へは奈良時代に伝えられ、以来江戸時代まで経巻や絵巻物などがこの形でした。



● 折本

卷子本は長いものになると必要な箇所を検索するのに不便であったことから折本が考案されました。織布で装飾した板状の表紙を前後につけ、本文を表紙の大きさに折った折本は、現在仏教の經典類に形を残しています。



● 冊子本（和本、和装本）

和紙を用い、日本古来の装丁によって作られた本。装丁法には、糊のみを用いた胡蝶装、糸で綴じる綴葉装、平紐による大和綴、書写面または印刷面を表にして袋状に二つに折り、糸で綴じる袋綴などがあります。



西洋では 15 世紀に活版印刷が誕生し、大量印刷が可能となりました。この技術は 18 世紀に日本へ伝わり、明治時代には印刷物の大量生産が行われるようになりました。その背景には、パルプを原料とする紙の大量生産化があります。やがて大正時代に入ると、製本機械の国産化が進み、専門メーカーも出現して、日本の製本業界も近代製本へと大きく前進しました。このように日本人は古くから紙に親しみ、その文化を作ってきました。

大量生産の可能な本を作る過程において、様々な工夫を重ねられ、現在私たちが手にしている本ができています。

(参考図書：日本大百科全書【031/N71】)

学生による！

Book review

タイトルの「かんたん」は「簡単」という意味ではない。本書は一風変わった短歌入門書である。自らを「特殊歌人」と称する著者が「マスノ短歌教」という架空の宗教の教祖を名のり、少女漫画誌「キューティ・コミック」で連載した記事をまとめたものが主となっている。毎月読者から送られてくる短歌を紹介し、添削しながら短歌作りのコツを教えてくれる。短歌というとなじみにくい印象を抱く人もいるかもしれない。しかし、本書の短歌のルールは「5 7 5 7 7 の言葉で自分の気持ちを他人に分かりやすく伝える」というシンプルなものだ。本書に載っている短歌を読めば短歌への印象が少し変わり、自分でも短歌を作ってみたくなるだろう。短歌作りには別に興味ないという人には巻末の作品集から読むことをおすすめする。きっとハッとさせられる歌に出会えると思う。



『かんたん短歌の作り方』
著者 榎野浩一
発行社 筑摩書房
2014年7月10日発行
【請求番号：911.107/Ma68】
図書館3階伝統ゼミ選書



明けましておめでとうございます
寒い日は、図書館でゆっくり読書もいいね～！
冬季長期貸出の返却日は 1月11日(木)です。
返却忘れにご注意くださいね！！

